



春を告げるロウバイ(蠟梅)の花 ロウバイはまるでロウ細工のような黄色い花を咲かせます。香りは、清潔感のある甘い香りです。中国原産で、日本に渡来したのは17世紀初めの江戸時代ごろとされているそうです。和名の「ロウバイ」の語源は、漢名の「蠟梅」の音読みとか。花言葉は、「奥ゆかしさ」「慈しむ」「慈愛」「先導」「先見」だそうです。ウクライナを侵略するロシア、ガザ地区の密集地を攻撃するイスラエルとそれを擁護するアメリカの指導者たちに、ロウバイの花言葉の欠片でもあればと思わずにいられません。

(写真と文 七里)



千葉県版

NO.429

2024年3月15日

発行所
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
千葉県本部

〒260-0854

千葉市中央区

長洲1-10-8

自治体福祉

センター1階

電話

090-7909-0849

(小松 教)

FAX

043-441-5094

Eメール

a-komatsu@jko.

so-net.ne.jp

千葉県「版」編集部

連絡先 七里一司

電話・FAX

047-314-8714

6月県本部総会 までに650名の 同盟に！

「戦後政治の歪みのおお
もとを正す力」をさらに
大きく！



治安維持法国賠同盟
千葉県本部会長

小松 実

「千葉県には一日も早く、5
00名の組織になってもらわな
きゃ」

亡くなられた前中央本部会
長の増本一彦さんの言葉が忘
れられません。私がこの運動に
かわり始めて間もないころ、
県本部総会に顔を出された増
本さんのその言葉に、出席者

の間から失笑が漏れたことも
思い出します。なにしろ、当時
(2017年頃)の千葉県本部
の会員数は、250名前後でし
たから。

それが2022年の第40回
全国大会では510名。そして
この2月1日の現勢では、さら
に609名へと大きく前進して
きました。みなさんのお力添
えに、心から感謝したいと思
います。

県本部では、常に会員拡大の
目標と期限を明らかにし、そ
こへ到達するためのさまざまな
手立てを支部のみなさんと
ともに講じてきました。昨年の総
会では、次期総会(今年6月)
までに650名の県本部へ、と
の目標を確認しました。

自民党政権の下ですすむ
「戦争する国」づくりと大軍拡
その財源のための増税と社会
保障のさらなる削減、一方で
のぐずぐずの金権腐敗。私た
ちは、その根底に「戦争と弾圧
の歴史」への無反省がある、戦
争と弾圧を推進した勢力が、

(次ページにつづく)

(前ページのつづき)

戦後、きちんと断罪されないまま、権力の中枢によりみがえり、戦前と同じ思想と姿勢で居座り続けてきたという、いわば戦後史の弱点があると考えています。いま私たちは「遅まきながら」ここをこそ正す課題に正面から挑み、「戦争と弾圧の歴史」に決着をつけていかなければならないと考えています。彼らの「歴史修正主義」

治安維持法国賠同盟

千葉県本部

事務局から

2月22日、県本部理事会が開かれました。

会議の冒頭小松実会長がいさつし、次のように述べました。

「2月20日の藤田廣登さんと歩く『多喜二ウォーク』は、物凄い人気で途中で受付中止をしました。しかし、断るだけ

どころか「歴史改ざん主義」を許してしまうのか、それとも正しい歴史認識を国民全体のものにし、それを打ち破っていくのか、それは文字通り、この国の未来がかかったたたかいです。そのためには、大きくなったとはいえ、まだまだ小さなこの組織をさらに発展させ、力をつけていかなければなりません。県本部では、3か月連続で二桁の会員拡大に成功してきま

した。日常的に、そしてさまざまな行事のなかで目的意識的に会員拡大に取り組んできた成果です。今後、毎月二桁の純増を実現していけば、650名の目標は実現できます。

戦後政治の歪みのおおもとを正す運動と力をさらに大きくしていくために、ともに頑張ります。

では忍びないので、藤田さんと相談し4月16日に第二弾実施を決めました。これもほぼ満杯で、その後の申し込みは断りしています。今月は『多喜二ウォーク』で5人、飯島喜美

◆ひきつづき、飯島喜美顕彰碑募金者や各支部主催の学習会・講演会などの参加者に入会をはたらきかける。

2、国賠署名

建立碑募金者へのはたらきかけなどで5人、合わせて10人の方が入会しています。6月の県本部総会までに目標の650人達成をめざし、さらに頑張ります」と訴えました。

◆各支部は、会員の署名集めを呼びかけるとともに、地域の民主団体の催しがある場合は、団体の許可をもらい会員が会場に向き署名を集める。

(次ページにつづく)

房総



陸海自衛隊幹部らの靖国神社集団参拝が大問題になっている◆戦前天皇制政府と軍部は天皇への「忠義」を尽くして戦死し「靖国の英霊」になることを最大の美德として宣伝。靖国神社を、侵略戦争に国民全体を動員するための精神的な支柱として持ち上げた◆戦後、日本政府は中国や東南アジアを侵略した加害記録を真剣に調査していない。マスコミも日本の侵略戦争について、真に正面からとりあげ、質と量をともなう記録として国民に知らせる努力をしてこなかった◆その結果、日本の侵略

地において、何千何百万人もの人たちが殺されたという事実を、多くの国民がうわさ程度に、抽象的にしか知らず、侵略とは具体的に何であったか気づかずにいる。このことが、歴史の歯車を逆転させようとする力によって利用される結果につながってゆく◆1969年に自民党は、靖国神社を内閣総理大臣の監督下に置きその儀式行事の必要経費の一部を国費で負担するという、いわゆる国体護持をめざした靖国神社法案を発表したが、廃案に追い込まれた。その後自民党は、靖国法案にかわる国体護持運動として公式参拝の実現を推し進めてきた◆侵略を美化する行為は、絶対に許せない。他国を侵略した歴史の真実を、詳しく国民に伝える努力がいまこそ求められている。

会員拡大

会員到達は、616名

2月20日の「多喜二ウォーク」で5名の入会などで、今月は11名を拡大。退会が4名で増は7名、会員到達は616名になりました。

国賠署名

署名到達は、3263筆

2月の署名数は、485筆で到達は、3263筆となりました。募金も寄せられました。ありがとうございました。

・2月6日、佐倉市 時崎賢治 5筆
・2月12日、船橋市 矢野光雄 5筆

・2月16日、日本共産党 千葉県委員会 10筆

・2月22日、信夫彦哉 10筆

・2月22日、船橋支部 10筆

・2月22日、佐倉市 宮本博子 10筆

・2月28日、船橋市 沢田洋二 10筆

・2月28日、旭市 笹生洋子 10筆

・2月28日、船橋市 八木下博 7筆

・2月29日、千葉市支部 238筆

・2月29日、市浦支部 139筆

・2月29日、松鎌支部 31筆

『会員は、年間10筆の署名を』

めざしましょう』

(前ページのつづき)

3、映画「伊藤千代子」の取り組み

◆県実行委員会事務局会議で決まった、南房総地域(南房総市、館山市)での上映会計画をすすめる。

4、報告事項

◆2月20日、「多喜二ウォーク」が県本部と千葉市支部共催で行われ、39人が参加。

◆2月15日、中央常任理事事が開かれた。小松実、高橋妙子、小松敦の各氏が出席。

◆2月13日、県本部三役会

飯島喜美顕彰碑

建立募金

募金到達は、

338万8600円

募金は2月4日現在、610名の方より累計で338万8600円寄せられました。ご協力に心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

が開かれ、次回理事会提出の議案等について審議。

◆「不屈」発送が2月13日行

われ、細沼敬二、小松実、高橋妙子、渡邊喜代子、小松敦七里一司の各氏が参加。

◆飯島喜美顕彰碑建立実行委員会が、2月16日開かれ、県本部から小松実、小松敦の各氏が参加した。

◆「多喜二ウォーク」第二弾、4月16日実施。

◆関東ブロック交流会が、10月14日(月)〜15日(火)、湯河原で行われる。記念講演は山田朗氏。

◆「飯島喜美」講演会、3月17日、午後2時から、あさひ市民センター第2会議室、講演は藤田廣登氏。

◆国賠同盟国会請願行動、5月15日。

5、理事会などの日程

◆三役会と「不屈」発送は、3月12日(火)、4月11日(木)。

◆理事会は、3月19日(火)、4月19日(金)。

千葉県国賠同盟からは小松敦事務局長、藤田、「不屈」発送協力者・植村恵美子さん、東京国賠同盟事務局長・中嶋

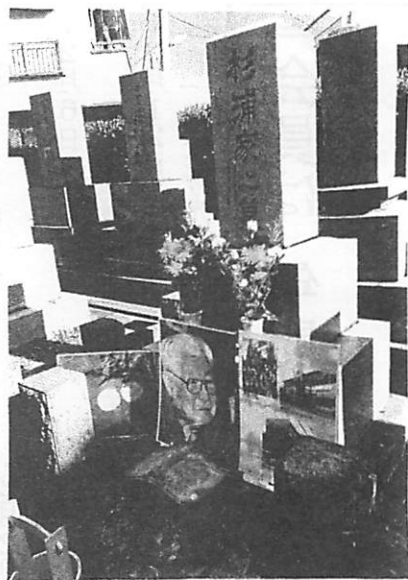
千葉県同盟顧問を歴任した治安維持法弾圧犠牲者の故杉浦正男さんの3回目の祥月命日にあたる1月12日午前、葛飾区細田の宗念寺で墓参会を行いました。



治安維持法国賠同盟
中央本部顧問
千葉県本部顧問

藤田廣登

杉浦正男さん 3周忌墓参行

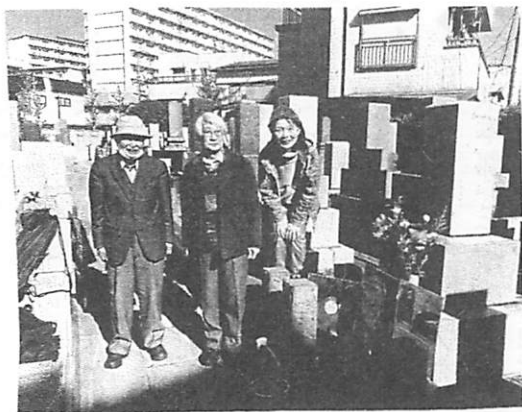


杉浦家の墓

育夫さんの4人が参列し、杉浦家墓所に献花しました。
墓前には、杉浦さんから戦時下に至るまでの労働組合が解散させられ、侵略戦争に協力す

る産業報国会に組織替えさせられるなかで、「出版エクラブ」に1500人もの組合員を結集して労働者の要求実現のために闘った「出版工俱樂部」旗や著書も添えられ往時の活動を偲びました。
解散後、同じ京成線高砂駅をはさんで「出版エクラブ」碑のある常願寺を訪ねました。
なお、今後は千葉県、東京の両国賠同盟が協力して墓参会や顕彰碑活動を協議して進めることが提案されました。

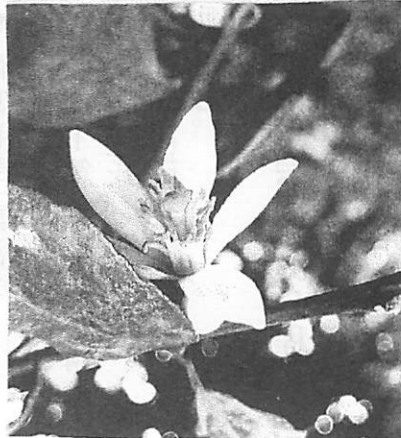
(写真 小松 敦)



杉浦正男さん3周忌墓参会。参列した方々、右の写真・左から小松敦千葉県本部事務局長、藤田廣登千葉県本部顧問、いつも「不屈」発送にご協力いただいた白井市の植村恵美子さん。左の写真・左は中嶋育夫東京都本部事務局長。



アンズリウム
熱帯アメリカ原産で600種以上あるそうです。(写真と文 七里)



レモンの花

(写真 七里)

「100年史を深めよう!」学習会で

4人加入



治安維持法国賠同盟
市川浦安支部
事務局次長

埴 治子

「日本共産党の100年」の第1章の戦前を読み終えた時、初めて「治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟」という組織の存在の意味が分かった私でした。なんだ、そうだったのかと。

日本共産党市浦地区委員会の南行徳支部は、学習会を大事にしています。一人で読了は困難と考え、月2回2時間目安で学習会を企画し、読み合わせを始めました。隣の支部で読み合うだけが始めたという話を聞いたからです。

あの長文を読みあう?驚きでしたが、きっかけになりました。学習担当のリードで、輪番で音読し、切れ目のいいところ

で中断し、疑問や感想交流を。特に戦後は、同じ時代を生きていたわけで、体験を思い出しながらかみ合いました。

学習を継続しながら、小松実さんを思い出しました。何度か小松さんのお話を聞いて、どこかでもっと聞いてみたいものだと。

一つの支部だけではもったいないので、広田ブロック会議に提案しました。小松さんの講演はすでに聞いた人がいたので賛同してくれて、1月27日「100年史を深めよう」というタイトルで行いました。「100年史」の特に戦前を中心にお願いしました。講演は戦前から戦後に引き継がれた歴史を「100年史」に書かれている以上に詳しく話され、参加者全員小松節にやられました。全く途中休憩なしで。

用意されたレジュメの後半は残ってしまいました。事前に参加者全員に国賠同盟入会の用紙と黄色い署名用紙を配りました。

最後に入会の訴えをした小松さんと当日進行役の埴から。何と4人が入会してくれて、一人の人が後で書きますと申し込み用紙を持ち帰りました。

共産党の支部主催で開催した「100年史を深めよう」学習会は、もつと学びたいという雰囲気でした。

また聞きたい学びたいの声があり、何とか2回目を実現したいなと思っています。

左甚五郎作といわれる

「眠り猫」と「三猿」

日光東照宮の「眠り猫」と「三猿」。左甚五郎作といわれています。左甚五郎は、江戸時代初期に活躍したとされる伝説的な彫刻職人。

左甚五郎の作品は、安土桃山時代から江戸時代後期まで約300年もの期間に及ぶことから、ひとりの人物ではなく、各地にいた名人たちの代名詞だったのではとする説があります。

(写真と文 七里)



麻布十番

多喜二とその仲間たちの街を歩く

2024年2月20日

治安維持法国賠同盟千葉市支部 佐藤政司

東京市麻布十番
多喜二が小樽から東京に来て3年。非公然活動に入ってから1年活動した街だ。

都営地下鉄大江戸線の麻布十番駅は、地下6階から地上に出るまで結構階段が続いて地上に出るまで間がある。4番出口には、治安維持法国賠同盟のゼッケンをつけた二人の小松さんが待っていた。

「多喜二ウォーク」出発前にあいさつする藤田廣登さん



10時半過ぎ、4番出口集合場所から、カフェを横切り近くの網代公園に集合した。これから隊を整え「多喜二の愛した街歩き」に出発する。出発に先立ち、国賠同盟顧問で「多喜二とその生きた時代に詳しい著作もある」藤田廣登さんから、「2月20日は、多喜二が殺された命日であり、治安維持法国賠同盟の活動に参加するみなさんが、ここ東京・麻布十番での多喜二とその仲間たちの活動の足跡を訪ねて現代と未来への思いを重ねる意義深い日を共有していきたい」とあいさつ。また、千葉県本部会長の小松さんから「同盟千葉県による多喜二ウォークは、初めてのことであり今後の活

動の発展を飛躍する一日としたい」とあいさつがあり、麻布十番多喜二ウォークが始まった。

最初の一歩は、多喜二の下宿先の浄土真宗称名寺。ここは1930年3月末上京し、多喜二が伊藤ふじ子さんと新婚生活を始めた下宿のある境内だ。本堂は、マンションになっているが住職さんの協力を得て「多喜二の下宿」跡を記す運動を東京中央区の同盟員たちが開始していくとの報告があった。多喜二の足跡から同盟活動の新たな一歩が記されていくことになる。

二番目は、浄土真宗善福寺。多喜二も見上げた小高い麻布山に建つ山門だったろう、今は聳えるマンションが寺院を見下ろしている。参道には、弘法大師開山、親鸞聖人立寄、初代アメリカ公使館が置かれたという由緒の石碑があり、境内には親鸞由緒の大公孫樹が：など麻布界隈を睥睨する寺町のにぎわいが聞こえてくるか

のようだ。藤田さんは、豊富な資料を用意してくれていた。「東京市『麻布区』の地図もそのひとつだ。「多喜二の非公然活動時代」の転々とする下宿先の順路と下宿先地。多喜二が小樽から東京に来てから築地で権力犯罪に斃れるまでの略年表入りで明解だ。



説明をする藤田さん

三番目、麻布山の裾に続く町並みは坂道だ。細い路地が結構入り込んでいる。提供の東京市地図にも寺をとりまく崖の記号がある。今は、マンシ

(前ページのつづき)

ン・ビル郡が立ち並びこじやれた飲食店が立ち並び賑わいの街だ。藤田さんは、石畳ある坂道の櫓の下で立ち止まり詩の朗読をはじめた。用意してくれた詩人土井大助さんの「麻布の坂道」だ。「時代の悪と対決する」「心新たな仕事場に選んだ 麻布の街」「一日を二十八時間に働く活動に再び立ち戻って行った坂」「いのちがけで上り下りした坂道だ」数人で順に読んだ。懐かしい土井さんの詩だ。この詩行にある「フールツ・パーラー」やマナカやは、今はないが跡地が「てもみん」表示のマンションになっている。ここのパーラーで多喜二は、執筆したり母や弟たちと最後の別れをしたところとして、多喜二を伝える小説や映画に、「平和のひとつ」としてスポットを当てている。誰が多喜二とその家族の平和を壊したのか！今も続く平和社会と人権を抑圧破壊する権力の者たちへの憤りとそれを許すまじの気の持ち様を念ずる。

藤田さんは、「多喜二は、東京に来て5回引越しているが、この麻布界隈から出ていない。これは多喜二独特の権力に対する大胆な行動を起こす気概のなせることではないか。1回目は1930年4月称名寺。2回目は近くの32年7月新網町(隣町)。3回目はその隣の櫻田町(32年9月)。4回目33年1月。5回目福吉町(逮捕地)。此の地は、多喜二が新しい平和な世の中めざし情熱をかたむけ愛した街と言えるのではないかと話します。

お昼近くになり一行は、地下鉄に乗り築地市場に向かった。そこは、築地本願寺だ。地に出れば、築地市場外の露店が立ち並びほとんどインバウンドの旅行者が露店前で立ち並び食を楽しんでいる。お昼は、本願寺内の紫水です。鴨うどんとおいしいカレー。

昼食後、ウォーク前に築地本願寺の由緒と本願寺の平和・9条まもる活動のとりくみなどの話があり、平和、憲法

集会などでみかける平和・憲法まもる取り組みをすすめる仏教会の活動にも思いを馳せます。

午後は、いよいよ築地です。多喜二終焉の地。

築地本願寺からほど近いところに築地小劇場、前田医院、築地警察署があります。まさに、今頃の時間に多喜二がスパイ三船により拘束を受け築地署に連行された時間帯とのこと。

午後の一番目は、築地小劇場です。残念ながら築地小劇場めぐり背景などほとんど知らず藤田さんの資料から千田是也、滝沢修、杉村春子など映画やドラマの見覚える俳優たちが活動したことを知る。ましてや多喜二がそこでプロレタリア作家同盟で、「官憲に“弁士中止”を言わせない機転を利かす名あいさつし喝采を浴びていたこと」など藤田さんの臨場感あふれる話に聞き入りました。藤田さんは、小劇場が革新的演劇運動に果たし

た役割が大きいものがあつたと。プロレタリア作家同盟の大会が行われ、多喜二が殺された後抗議の労農葬を開催。多喜二の小説の上演「沼尻村」「蟹工船」は「北緯五十度以北」と題して帝国劇場など今日につながる文化演劇に大きな影響を与えていることなど新しい発見になった。跡地にブロック塀に小劇場をかたどった



築地小劇場跡地前で、参加者のみなさん

(次ページにつづく)

千葉市支部女性部結成

一周年記念企画

「歴史と歌詞から」

ジェンダー問題を考える」

参加者の感想文

(前号のつづき)

1、講演会はいかがでしたか

●goodーこのような講演会があるのですね。歌が多様で全部素晴らしいかったです。特に、さだまさしさんはそっくりでした。先日、NHKでピンクレディーと山口百恵のドラマを見たばかりでしたがその時の違和感がここで納得できました。

●とてもとても良かったです。今日の午前中にこの会を「まあぶる」で知り参加しました。山口百恵、ピンクレディー、私はとても嫌だと思っていました。ひっかかる言葉気になる言葉…もつと敏感になろうと思いました。

●歌は時代をよく表している。私たちはその時代の為政者が望む方に持つていく為に利用されているということがよくわかりました。歌手もそのために利用されているのだということもわかりました。

私達はよく考えて流されないようにしなければ、と思いました。ジェンダー平等の本当のあるべき姿は、私自身の育ってきた制約の為にまだ十分理解できないでいる。

●一昨年に市川浦安女性部の開催でお聞きし、素晴らしい内容だったので知り合いに声をかけて本日も楽しみに伺いました。笑って泣いて、怒って、あつという間の時間でした。私達は多くの歌に操られて生きて来たのだと思います。歌詞の裏に何があるのかよく見極めなければなりませんね。もつともつと広がって欲しいです。大熊さんありがとうございます。

●日頃気になっている差別について歴史的に理解できた。歌があるので、眠くなることもなく楽しく聞けました。参加者はやはり高齢者が多いが、若い人にも呼び掛けたい。「まんまる団地」のジェンダーも気になる。こんな講演を各地でやってほしい。「私らしさは私が決める」夫、子供、孫にも伝えたい。

●大熊さんの歌と軽妙なトークにより楽しく聴けて、そして面白かったです。私は話し好きで、子供の頃「お前は男のくせにしやべりすぎる」とよく言われ

(次ページにつづく)

(前ページのつづき)

大きな記念碑がある。いま、再開発で移転を迫られているそのレリーフを如何に存立させるかという運動も始められている。

二番目は、築地警察署の裏にある築地病院(現前田医院の看板で存している)。多喜二が「心臓麻痺」として警察が形式的に診察を受けさせた病院だ。「運び込まれて、15分息をしていた」と看護婦が証言していたという。理不尽なことに殺した上、その通知すら故意に北海道の旧住所にし遺体引き取りを遅らせるなど、当時の新聞はデタラメ放題の警察発表が載っている。

三番目。築地署。「特高の名門」とのこと。特高の中川成夫は多喜二に対し「隠しきれない怒りと憎しみ」「天皇制を否定するやつは逆賊だ。ぶち殺してもかまわない。命はないものと覚悟しろ」という証言をしており、そのとおりに虐殺された。ところがどうだろう、この殺人をやった中川は、戦後東京都

北区の教育長となっている。同盟の小松会長は、「戦前の警察権力・特高の行為を裁き糾すとともに犠牲者の尊厳と名誉・人間復活を求める運動をひろげる意義を改めてひろげる必要がある。同盟運動を発展させる意義もここにある」と訴えた。藤田さんは、築地署の前の公園で多喜二ウォークのまともに土井大助さんの詩を朗読した。

「新しい世の中めざし 何代がかりの運動に」「なによりもウソを憎んだきみは 国家のウソの皮をひっぱがさずにいられたかった。鍛えたペンで、一日二十八時間の活動で」「何代がかりの 最後の代は いま産声をあげている」

2月にしては「熱い日」だった私たちの多喜二ウォークは39名の参加者があり、さらに4月に開催が待たれる盛況でした。5名の新しい同盟員が加わり時代を拓く力となった。歩数計は、9458歩だった。

(写真 渡邊喜代子)

小松敦

(前ページのつづき)

ました。「それは僕の個性だから」と反発したものでした。2021年の県知事選挙の際、かなみつ理恵さんにその話をしたら、早速演説のネタに取り上げてくれました。

●大熊啓さんの歌と講演は二回目でした。まあと同じ内容。かと想像していましたが、今回はジェンダー問題を歴史に沿って話されて、自分の生きて来た時代もそうだったと領けることが多く、よく理解できた。

●とても素晴らしかったです。「私らしさは私が決める」楽譜があればサークルで歌いたいです。

●楽しいひと時を過ごさせてもらいました。たまにはいいですね。また機会があったら是非聴きに

来たい。女と男の生き様。そして自分の歩いてきた人生を思い返して聴きました。今はヘラヘラして生きて行ける世の中ではありませんもんね。兎に角、たまにはいいですよ。最後の唱は殆ど知りませんでした。男社会はいつもあるんだなと思った。とてもいいお声ですね。最後の歌はいいですね。

●ジェンダー問題を歴史的に捉えながら、歌とともに知らせてく

れて本当に楽しく聞かせてもらいました。最高の企画でした。うたごえで大熊さんの活躍はよく知っていたが、こんな深い話が聞かれるとはすばらしい!

●大変分かり易い資料に沿ったお話(男らしさ女らしさ)のジェンダーの歴史、そして素晴らしい歌声と詞に感動しました。ありがとうございました。考えることの多い時間でした。

●とてもよかったです。色々な時代の流れに戻れました。

●良かったです。新しい視点で自分のことも振り返り大変勉強になりました。大熊さんの講演内容(スライド含む)全てをネットで見られるようにしてほしい。もしあるなら紹介してほしい。

●学生の頃に聞いたヒットソングを聴けて楽しかったです。戦前、終戦の歌は当時のSPレコード音源を使用して戦時下での歌を作るのが大変な所を感じさせられました。

●大正デモクラシーの時と「早春賦」の話が大変興味深かったです。歴史をふり返りながらの様々の歌の歌詞が今までとは違ってきた感じがしました。何も考えずに長いこと生きて来た感じがします。こ

れからの人生にすこしでもジェンダーのことを意識してみたいと思います。すばらしい歌声でした。

すぎるのがもったいない。

●時間の制約上とて早口でがんばってくれたので、もう少しゆっくり時間があつた方が良いのではないかと感じた。大熊さん、大変だつたらうと、お疲れ様でした。

●新年から、このような良い会をありがとうございました。

●休憩がないのは少々辛いです。せめて5分間の休憩があつてもいいと思います。

●最後の方のアメリカ等のことは知らないことばかりで、メモをと

●お疲れ様でした。運営にむけての皆さんのエネルギー、すばらしいですね。

●いい企画をありがとうございました。母親大会に呼ぼうと思つていましたが、先にやられてしまつた。

●問題ないと思います。もう少しすそのを広げた人々へのお誘いもあるといいのかな。

●またぜひやっていただきたいです。

●こんなに良い企画を今回のような狭い会場でやったのは残念。彼が時間をかけて準備をしてくれたのに申し訳なく思う。大熊さんを知らない人が多いなら事前の宣伝をガンガンやって、広く知らせるべき。このような良い企画を次の選挙の勝利に結び付けるべきだ。

●新年から素晴らしい企画をありがとうございました。

●女性部結成一周年記念にふさわしい企画をありがとうございました。

2、運営上お気づきの点を

お願いします

●スクリーン使用時は前の部分でも良いですから多少暗くしてください。

●時間が足りないからか?早口



2023年10月、
国賠同盟東葛支部主催の

学習会での講演

2・4事件と

信濃教育会、

満蒙開拓

青少年義勇軍

―教師はなぜ満蒙開拓青少年義勇軍勧誘にかり出されたのか―
(3)



立沢和樹

河野村村長 胡桃沢盛

(くるみざわ もり)

両者の中間もいた。河野村村長胡桃沢盛は、大正自由教育の中で育ちリベラルな考えをもっていたが、満州移民割当てを受け、悩んだ末に移民を決断し、自ら農家の説得に当たったという。1944年8月移民送出95人。下伊那からの最終送出だった。1年後ソ連

軍に追われた開拓団は集団自決した。胡桃沢盛は開拓団の消息を尋ね歩き東京まで行くがわからず、生存者が帰村してから河野村開拓団が集団自決したことを知り、責任を取って41歳で自死した。戦後書かれた彼の日記には、「負けた歴史、都合の悪い歴史をしつかりと教えることが大事」とあったそう。

二つの針―教師の責任―

満州開拓青少年義勇軍送出について、教員の果たした役割は大きく、責任も重かった。諏訪にいた元教師は次のように述懐している。

「私は義勇軍の担当ではなかったが、ある子が『青少年義勇軍に親も反対しているし、私も行きたくないが、担任の教師から毎日のように責め立てられている』と相談に来た。私は、『石ころの畑や田んぼを起こしているよりも、今より良い暮らしができると思うよ』と

答えた。しばらくして、少年の一家5人は、分村開拓団に参加したが、戦後帰国できたのは妹と弟の2人だけだった。『兄さんが満州に行かなかったらこんな不幸にならずに済んだ』といったと風の便りに聞いた。大変なことをしたと思った。

私には国に騙されたという情報の偽りへの怒りがある。『俺を騙しやがって』という。それに、あの子たちに嘘を言って勧めてしまつて申しわけなかったという。その二つの針がぐつと刺さつたまま、今も抜けないでいる」(「戦地に渡つた教え子たち」長野放送より)

・満州にあこがれて果てし少年に我が教えたる三人まじれり

千尋(昭和53年)

この思いは、青少年義勇軍に関わつた教師達は皆持つていたのではなからうか。教師たちの責任は重かった。

父は拘留後、罪人という意

識に苛まされた。教職に復帰後は「義勇軍」勧誘に追い立てられた。戦後、父は事件について何も言わなかったが、母は2・4弾圧事件の事が新聞に出るたびに、「あれは(教労や新教の)上の人たちがやったことだよ」と父に言い聞かせるように言っていた。私たちが成人してから母は「穏やかに」「穏やかに」と言い続けていた。2・4弾圧事件で長野県の住民は「お上に楯突いたら大変なことになる」と思わされたに違いない。私は長野県においては2・4弾圧事件―満蒙開拓団・満蒙開拓青少年義勇軍の流れは、別々ではなく一つの流れの中で捉えるものだと考えている。

参考文献

・「抵抗の歴史」二・四事件記録刊行委員会
・「人びとはなぜ満州へ渡つたのか―長野県の社会運動と移民」

(次ページにつづく)



乗蓮寺

東京・板橋区赤塚にある 乗蓮寺の東京大仏

先日、東京大仏を見ようと
出かけました。



東京大仏

東京都板橋区赤塚の乗蓮寺
にある東京大仏。境内にある
この大仏は、阿弥陀如来像で
東京大空襲、関東大震災など

(前ページのつづき)
・「二・四事件」に学ぶ上伊那の
集い 77周年記念・記録集
・「満蒙開拓青少年義勇軍と
信濃教育会」長野県歴史教
育者協議会
・「満蒙開拓青少年義勇軍」の
創設過程 白鳥道博 北海
道大学教育学部紀要

・「満蒙開拓青少年義勇軍」の
変容 1938・1941 白
鳥道博 北海道大学教育学
部紀要
・「下伊那から満州へ」齊藤俊
江 飯田市歴史研究所
・「人々はなぜ満州へ渡ったのか
」長野県の社会運動と移
民」小林信介 世界思想社
(おわり)

の悲惨な戦災・震災が起きな
いようにとの願いを込めて、1
977年(昭和52年)に建立
されたそうです。高さ13
メートル、重さ32トンあると
いいます。
坐像で青銅製の铸造大仏と
しては奈良・東京都日出町・鎌
倉に次ぐ日本で4番目の大き
さだそうです。

板橋十景の約半数が

集まっている地域

このあたりは武蔵野台地の
端に位置するため起伏に富み、
緑豊かな閑静な地域です。歩
いても坂が上がったり下つ
たりします。板橋十景のうち
の約半数が周辺に集まっていま
す。赤塚城址・松月院・板橋区
立美術館・区立赤塚植物園・
都立赤塚公園・区立赤塚溜池
公園、板橋区立郷土資料館な
どで、これらを見て回りました。

千葉県市川市に

縁のある赤塚城

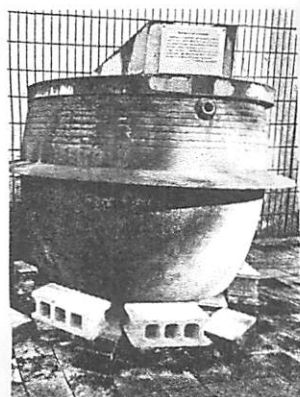
赤塚城は、赤塚5丁目にあつ

た城で、城跡は東京都立赤塚
公園の一部として整備されて
います。赤塚城は、1456年
(康正2年)に千葉県市川市国
府台付近にあった国府台城か
ら移った千葉自胤(ちばよりた
ね)によって築城されたと伝え
られています。

郷土資料館の

醸造用大釜

左の写真は、板橋区立郷土
資料館に展示されている醸造
用大釜です。説明版によると
板橋区成増にあった日本酒の
醸造元「秀峰」で使用した蒸
米・釜場用の鉄製大釜で、甑
(こしき)をのせて米を蒸した
り、湯を沸かすために使ったそ
うです。
(写真と文 七里)



読者の文芸



短歌

●地に降りし星のごとくに

銚子市 真久絢子

雨水の煌めき止まず庭の落葉に

●日溜まりに首を伸ばして黄色の輝き放つ冬のタンポポ
常識を盾に小さな過ちを責めるを見れば

悲しき日のあり

銚子市 三浦好博

●我が暗記せし前文と九条は戦争は決して起こさぬ誓ひ
●良い言葉は心が綺麗になる予感憲法前文声だして読む
●私の世にかくも果てなき軍拡があると思わず又戦争か
●子や孫が集まり新年祝ひたり

このささやかな幸をガザにも

八千代市 野原隆志

●銀座ではノッポのビルがあちこちに青空少し柳も寂し
●久しぶり新幹線で旅をする久々の湯は秋保温泉
●ふと見れば年の初めの満月が東の空に泰然と在り

俳句

東京都杉並区 近藤秀雄

●独り見るさやけき月のわびしさよ
●廃屋の跡地広しや曼珠紗華

●遠花火ああそこにもある平和
●枝間より洩れくる日射し低くなりぬ

ブッシュカン(仏手柑)

外出先で、ある家の玄関先で見かけたので撮りました。丁寧な持ち主の方で、説明書きがあつてブッシュカンだとわかりました。

ブッシュカンは、インド東北部原産で、果実は芳香があり濃黄色に熟し、長楕円体で先が指のように分かれます。名称はその形を合掌する両手に見立て、「仏の手」と美称したのだといひます。

(写真と文 七里)



ホトトギス(杜鵑)

日本固有種だそうで、名前の由来は、花の紫色の斑点のようすを鳥のホトトギスの胸にある斑点に見立ててつけられたといひます。

(写真と文 七里)

日本共産党とともに

私の五十年史

(4)

茂原市、一九四六年

七月入党

(二〇〇九年一月六日没)

林 邦美



当時三区の衆議院候補者としての任務をあたえられていたが、相談する所も無く、運動も個人関係をたよる以外に無かった。

一九五二年十月の衆議院選挙では、全国の得票は九十万弱と前回の三分の一以下で、当選者はなかった。きびしい状況の下で長い苦難に満ちた活動が進められていた。一九五五年七月に開かれた、第六回全国協議会は新しい出発の第一歩となった。それから第七回大会、第八回大会と更にきびしい道をたどらなければならなかった。

(おわり)

古書店で発見!

日本共産党発行の

『特高警察黒書』

特高警察黒書

『特高警察黒書』編集委員会編

米原 邦
風早 八十二
塩田 庄兵衛

新日本出版社

先日、用事をすませた帰りに古書店に立ち寄った。そこで目にしたのは、日本共産党の『特高警察黒書』編集委員会編の『特高警察黒書』(新日本出版社)。

この発見は驚きだった。初版から47年も経つというのに、知らなかった己の不勉強さにも驚く。

初版は1977年(昭和52年)6月30日、著者は編集委員会責任者の米原邦、そして弁護士の風早八十二、立命館大学教授の塩田庄兵衛。

序文(米原邦)に「1976年

2月、日本共産党中央委員会内部に、『治安維持法被害・戦争犯罪調査特別委員会』が設置されたが、委員会発足後、党の内外からこの委員会には、多数の貴重な資料が寄せられた。編集委員会は、この資料にもとづいて、ここに『特高警察黒書』を発表することになった」とある。

また「戦後にそだった今日の青年の多くは、戦前の暗黒政治について、ほとんど知らないし、知らされていない。そのため、春日・塚本違憲質問のおこなわれた当初、青年の間では、戦前・戦中を経験してきた壮年層ほどのような強烈な反応がすくなくつたと聞いている。だが、この一年間、ロッキード疑獄事件、鬼頭判事事件、日韓「癒着事件」と、つぎつぎと戦後30年の日本の政治暗部をいろいろの事実が発覚し、その究明がすすむなかで、青年たちの間にも、その源流としての戦前の暗黒政治にたいする関心がかつてないほど、た

かまっている。

本書は、何よりも今日の青年のそのような関心にこたえるため、理論的・学問的解明よりも、過去の暗黒時代の暗黒の事実そのものを集大成することに全力をそそいだ。なお、本書を『特高警察黒書』と名づけたのは、戦前・戦時中国民から自由と民主主義をうばいさつた権力犯罪者が特高警察だけであつたという意味ではもちろんない。権力犯罪者として、特高警察は大きな役割を演じたが、思想検事や思想係判事も、それに劣らぬ役割を演じているし、さらに侵略戦争が拡大するなかでは、憲兵が権力犯罪者として、特高警察以上の役割を演じている。

だが、この書物をあえて『特高警察黒書』と名づけたのは、それらの権力犯罪者を代表する名前として『特高警察』と呼んで差支えないと判断したからであり、他意はないことを了承していただきたい」とある。

(文七里)

匝瑳市での『特高警察が踏み
じった人々の記録—千葉県編
—』出版記念講演会での講演

治安維持法の

成立と運用

—千葉県特別高等課『日本共産党千葉
県委員会 日本共産青年同盟千葉県準
備委員会 検挙概況』にふれながら—



小樽商科大学名誉教授
荻野富士夫

もちろん警察の取調過程で
小林多喜二のように拷問で殺
されてしまうという例は数多
くありますが、判決としては
ない。

ところが、朝鮮においては判
決として死刑判決がかなりあ
ります。朝鮮の場合は現在の
北、北の脱北者が渡つていく川
の向こうは中国ですが、当時
はそこに朝鮮の民族独立運動
の根拠地がありましたので、ゲ
リラ的に朝鮮内に入ってきて、
そして警察署などを襲撃して、
また戻るといふような、そうい

う活動をしていました。そこ
では放火であったり、警察官が殺
されたりというようなことが
あります。刑法の殺人罪、あ
るいは放火の罪ですね、こうい
うようなものと治安維持法の
罪とが併合されて、死刑判決
が50例以上出ております。
その中には中国共産党に加入
して活動したとして、治安維
持法違反のみで死刑判決に
なつた事例もあります。

台湾においては治安維持法
の適用の件数・人数はかなり
少ないのですが、そこでも確認
できるものとして2人の死刑
判決が出ています。

ここで申し上げたいことは、
朝鮮において、台湾において、
それから「満州国」という日本
がつくつた傀儡国家において、
治安維持法がいかに猛威を振
るつたかということ、つまり日
本の何倍も上回る悪法であつ
たかという事を皆さんにぜひ
知っていただきたいということ
です。

治安維持法の「いわれい
んねんの、いちぶしじゅう
を」明らかに

私が治安維持法について改め
て検討していくにあたって、
きっかけとなつた文章がありま
す。それは治安維持法などの
「法律が、どうして、どんなに
して、つくられたのか。どんな
に法律としての力をふるつて、
人民を苦しめたのか。—そのい
われいんねんの、いちぶしじゅ
うを、みなもとにさかのぼつて、
私たち人民が知りぬき、考え
ぬいていかないうことは、
危険きわまることだ」というも
のです。これは京都の弁護士
だつた能勢克男という方の言
葉です。能勢は1930年代後
半、週刊『土曜日』を刊行する
など、いわゆる人民戦線運動
を京都で展開していた1人で
すが、この人も治安維持法違
反に引つかかつて有罪になつて
います。戦後、弁護士に復活
しますが、民主化・非軍事化へ
の反動がおよんでくることに



同志社大学時代の能勢克男

対して、「治安維持法のごとき
法律を、いつたい、どういつて合
理化することができるとのだろ
う」と痛烈に反撃します。19
48年頃の発言です。「私たち
はぜつたいにいていさいのいいこと
に、だまされるわけにはいかな
い……もう一度、そういう
ことが何かにまぎれて、おこつ
て来ないとは、だれもいえない
いや、そういうことは、何度で
も、まきかえし、くりかえし、
おこつて来る。人民の敵そのも
のが、根絶やしになつていない
で、私たち人民が、ほんとうに
敵味方の見わけがつかず、ボヤ
ボヤしているかぎり、それはい
く度でも、くりかえし、おこつ
て来る」と強い警告を發しまし
た。

(次号につづく)